



# 徳島市民病院だより

徳島市民病院の理念  
「思いやり・信頼・安心」

R04/08

31号

〒770-0812 徳島市北常三島町 2丁目 34番地 徳島市民病院広報管理室 TEL (088) 622-5121 (代表)

## 放射線科総括部長を拝命して



4月1日より、放射線科総括部長を拝命しました生島 葉子です。専門は画像診断で、徳島市民病院には勤務21年になります。着任当時からすると、放射線科の業務内容もずいぶん変わってきました。

この数年間でも、放射線治療装置やCT装置の更新、小線源治療やIVR外来の開始等、診療内容・設備ともにますます充実し、今年度末にはMRI撮影装置が待望の更新予定です。短時間の検査で現在より詳細な画像情報が得られるようになるだけでなく、新装置で実施できる検査も多々あり、スタッフ一同とても楽しみにしています。読影医師のマンパワーも充実してきており、より早く、更に多くの検査所見の提供が可能となっています。

今後、放射線科がよりよい医療を提供していくためには、院内のみならず地域の医療機関との連携がたいへん重要です。IVR部門の条件をクリアできたことで、来年は放射線科専門医修練機関の画像診断・IVR部門認定も可能になるかと思われます。徳島大学放射線科との連携を深め、教育・研修機関としても貢献していきたいと考えています。

コロナ禍が長引き、全国の医療機関にとって非常に厳しい状況が続いています。一方で、高齢化社会が叫ばれて久しく、地域に根ざした病院の重要性は高まるばかりです。当科はこれからも、徳島市民病院のみならず、地域医療にも貢献できるよう努めてまいりますので、ご協力の程よろしく願いいたします。

(放射線科 生島 葉子)

## 救急室からのご挨拶



脳神経外科医として30年、うち市民病院で20年程お給料をいただいています。この度、令和4年4月1日付で救急室総括部長を命ぜられました宮本理司と申します。救急室の充実と皆様からのさらなる信頼を得ることができそうです。微力を尽くす所存でございます。よろしくお願い申し上げます。

さて、徳島市民病院は基本方針の一つとして、救急医療を含めた急性期医療と、高度で専門性の高い医療の提供を掲げています。当院は2次救急指定病院であり、複数の救急医が在籍している状態ではありません。日勤帯は医師1名が各診療科バックアップのもとに対応し、

夜間休日は内科系医師、外科系医師、産婦人科医師の3名体制で年間約2500台の救急搬送及び、約7000人前後の救急患者さんを受け入れています。

令和3年度はこのような点が評価され、救急医療功労者厚生労働大臣表彰をいただくことができました(全国医療機関で10病院だそうです)。スタッフはじめ皆様のご協力に感謝申し上げます。

最後になりますが、関係者の方々にはこれからの救急室の更なる発展と、安心できる救急医療提供のため、改善点等ございましたらぜひともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。今後とも救急室運営へのご理解、ご協力をいただければ幸いです。

(救急室 宮本 理司)

## 四国三市病院長Web会議開催

去る7月29日、四国三市病院長Web会議が行われました。様々な経営課題について徳島市民病院、市立宇和島病院、高松市立みんなの病院の3市民病院が協議するもので、当初は対面での会議を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し、急遽Webでの開催となりました。各病院が提出した主な議題は以下のとおりです。

- ① 医師の働き方改革に向けた課題
- ② 処方カレンダーについて
- ③ 看護必要度について

議題①の働き方改革は、令和6年4月開始予定であり喫緊の課題です。産科救急に対応する体制整備、業務と自己研鑽の明確化等について各病院の課題と現在の進捗を確認しました。また、地域の中核病院における救急医療体制をいかに確保・堅持していくかは改革を進める上で解決しなければならない、大きな問題であることを再認識しました。

議題②では、当院でも過去に導入を検討した処方カレンダーの活用について協議し、現在利用している宇和島

病院、みんなの病院からは医療安全上の利点と今後の課題に関して具体的に聞くことができました。議題③では、令和4年度診療報酬改定による看護必要度への影響が報告され、必要度をⅠからⅡへと変更した事例における該当患者割合の比較など、情報共有が行われました。

各議題について真剣かつ本音ベースでの協議が行われ、非常に有意義な時間となりました。令和5年度の当会議では、市民病院が幹事病院となります。より良い協議の場となるよう準備を行うとともに、来年こそは対面での会議を開催し、更に深い議論や情報交換の場を提供できるよう、心から願っております。（事務部 加藤 誠治）



3市民病院にて協議中の  
当院、高松市立みんなの  
病院、市立宇和島病院の

## スペシャリストの活動報告会

6月15日、令和3年度の認定看護師等活動報告会が行われました。各分野のスペシャリストの皆さんが活動内容を報告し共有する場であり、今回で10回目の開催となります。

まず専門看護師・認定看護師・特定看護師14名より、昨年度の活動内容が総括コメント形式で発表されました。皆さんコロナ禍ゆえの活動範囲の制限や機会の減少に悩みつつも、資格を生かした患者さんのサポートをはじめ



め、院内研修の指導や助言、勉強会の開催、新たな加算の算定取得のための活動等を積極的に行っていました。院外活動はリモートが中心で、コミュニケーションの取り方や手技の説明が難しいなど課題も多く、状況の変化が待たれます。

続いて、昨年度新たにがん性疼痛看護認定看護師資格を取得した大和 英子さんより、活動報告が行われました。がん性疼痛看護分野に期待される能力と患者さんへの看護実践、患者支援センターでの活動目標の他、今後は協働や症例報告を通して活動認知を図っていく旨が、詳細に語られました。

最後に、橋本看護部長より今回の活動報告に関する総評と、若い世代を育て次へと繋げていこうという呼び掛けが行われ、終会しました。各分野の専門性を生かした取り組みについて知り、看護部全体のレベルアップに寄与する報告会となりました。（広報管理室 竹内 明子）



## 災害拠点病院 四国ブロック訓練

日本において大規模災害(地震、津波、台風、航空機災害等)やCBRNE災害(化学・生物[新型コロナウイルス]・放射能・核・爆発)の発生時に、主に災害医療活動を行い、管轄下の医療機関を支援する病院を災害拠点病院といます。当院は平成24年より指定され、DMAT指定病院にも認定されており、指定要件の1つには“5年以内に所属ブロックの実動訓練へ2回以上参加すること”が定められています。コロナ禍のため訓練も中止が続いていましたが、7月23日、3年ぶりに当院から宮本(隊長)、谷川、永坂、猪子、森田の5人で参加しました。

任務は、令和4年7月22日8時に高知沖が震源の地震が発災したと想定し、高知県からDMAT派遣の要請を受けて23日11時まで高知県中央活動拠点本部である高知

赤十字病院へ到着し、市内・上町病院に倒壊の恐れがあるため、本部長指示のもと病院避難の支援をするというものです。上町病院(実際は吾川郡いの町の消防学校を病院と仮想)では、院外に救出された傷病者を救護所でトリアージし、搬送の優先順位を決めて搬出する訓練を行いました。

気温38度、4時間の活動は約100人の参加者にとって過酷極まる現場で、長時間のため徒労に終わりかけるものでしたが、最後の振り返りにて実災害の苛酷さを考えると、全員が忸怩たる思いに駆られました。来年度の四国ブロック訓練、内閣府訓練は徳島県がホストとなります。災害医療に興味があればDMATでなくても参加可能ですので、ぜひ多くの参加者を募りたいと思います。

(患者支援センター 森田 敏文)



救護所にてトリアージや搬出訓練中の参加者一同



当院DMATメンバー

## 日亜化学工業より空気清浄機寄贈

5月28日、日亜化学工業株式会社から徳島市へ、深紫外線LEDによる空間除菌機「ACSTERIA(アクステリア)」を2台、寄贈いただきました。

深紫外線とは、3つの波長に分類される紫外線の中で、最も短い波長と高いエネルギーを持つ電磁波のことです。物体だけでなく水や空気の殺菌・除菌も可能なため、コロナ禍において更に注目されています。

当製品は細菌、ウイルスを含む室内の空気を装置内に取り込み、深紫外線LEDを照射して除菌を行うもので、パワフルな空気循環と低ランニング

コストが特徴とのことです。

寄贈品のうち一台は当院1階のエントランスホールへ、もう一台は市役所本館1階市民ホールに設置されました。市民病院と市庁舎の安全・安心な空間づくりのため、日々稼働しています。(広報管理室)



## 優良給食施設表彰

7月14日、当院は徳島保健所管内集団給食施設協議会より令和4年度優良施設として表彰されました。

アスティとくしま内にて行われた表彰式では、栄養管理室主任主査兼係長の久米 夕起子さんが、賞状と記念品を受け取りました。

これは、給食内容の充実や食品衛生、栄養改善知識の普及など、給食管理の向上において特に優良と認められる施設が選ばれるものです。今後の継続的な業務改善、組織力向上が期待されます。

(広報管理室 竹内 明子)

## 患者サロン2年ぶりに再開

4月27日、感染対策を講じて約2年ぶりに第116回患者サロン「なごみ」を開催いたしました。患者サロンとは、がん患者さんやご家族が、つらく不安な気持ちを同じ立場の方と話せる機会を提供し、様々な情報共有等を行うことが目的の場です。

当院の患者サロン「なごみ」は患者支援センターが主催し、平成21年9月より開催しております。月に1回(偶数月：第4水曜、奇数月：第4火曜)、14時から約90分間、季節行事のイベントや当院医療従事者からのミニレクチャーを行っており、今回は私が「高額療養費制度について」を講義させていただきました。

従来であれば、講義後に15時30分まで茶話会を設けており、患者さん同士で飲食をされていましたが、感染拡大防止のため今年度より禁止としており



ます。しかし、飲食なしの座談会に変更し、職員や患者さん同士で講義内容についての相談や個別質問に答えたり、それ以外の悩み等に看護師、公認心理師が回答したりと、2年ぶりでしたが有意義な時間を過ごされていたと思います。

今後も患者支援センターでは、がん患者さんやご家族の皆さんにとってより良い場、より良い情報を提供していきたいと考えております。

(患者支援センター 森田 敏文)

## TMHギャラリー

当院では、2階エスカレーター前通路にて「TMHギャラリー」と称し、絵画や写真の展示を行っています。8月2日からは写真家・西田 茂雄氏主宰の写真塾塾生による「おもちゃ天国」展が開始されました。

青空や木立、花々等の自然物を背景に、人工物ならではの造形と配色のおもちゃを配置し、コントラスト豊かな作品世界を作り出しています。塾生それぞれの対象へのアプローチをぜひ、間近でご覧ください。(広報管理室)



## 研修医日記

初期臨床研修医 阿部 紗也加

1年目研修医の阿部 紗也加と申します。大学6年間を高知で過ごし、4月から徳島に帰って参りました。生まれ育った徳島で初期研修ができてとても嬉しく思います。

社会人として働きだしてから、早いもので4ヶ月が経ちました。新しい環境に慣れるため必死で戸惑うこともありましたが、上級医の先生方は優しく、教育熱心な方たちばかりで充実した日々を送っています。また、

コメディカルの皆さんも優しくフォローしてくださり、いつも助けられています。初期研修先として、徳島市民病院を選んで本当に良かったと日々実感しています。

学生時代は1年間のポリクリを経験したものの、コロナ禍のため患者さんに会うこともままなりません。初期研修を始めるにあたって、



スタートラインにも立てていないような状況ではありますが、そんな私にどなたも優しく指導してください、とても感謝しています。実習が思うようにできていない分、経験すること全てが新鮮で、楽しく勉強させていただいています。

2年間の研修後、ある程度仕事ができるようになるのか不安でいっぱいですが、1つずつできることを増やしていけるよう、日々精進していきたいと思っています。至らない点ばかりでご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導の程、よろしくお願いいたします。